令和４年度　第２次津市水道事業基本計画（投資・財政計画）評価シート

## １　計画概要（PLAN）

| 計画コード | 20-20-01-01 |
|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所管する所属 | 上下水道管理局（経営企画課・営業課） | | |
| 会計名称 | 20 水道事業会計 | 計画関連ページ | P52,P53,P54,P55 |
| 財政収支計画 | 01 投資・財政計画 | | |
| 大項目 | 01 収益的収支 | | |
| 中項目 | 年間有収水量<br>収入の部<br>支出の部<br>損益<br>財政計画との比較については、別紙『水道事業（投資・財政計画）及び決算比較表』のとおり | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 指標 | ①　給水収益（水道料金の収入額） | | | | |
| | ②　営業外収益として内部留保資金の運用による受取利息等の額 | | | | |
| 目標値 | 単年度 | ①　6,444,275　千円 | 令和９年度（計画最終年度/累積） | ①　59,696,561　千円 | |
| | | ②　1,799　千円 | | ②　17,990　千円 | |

## ２　実施結果（DO）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実施した主な事業 | 令和４年４月１日に約２８％の料金改定を実施したため、給水収益は、前年度と比較して約16億円増加した。<br>給水収益の増加に比例し未収金も増加となるが、未収金のうち滞納分については、個別の事情を考慮しながら、委託事業者と連携し納付指導による収納率の向上、不納欠損の縮減に努めた。 | | | | |
| | 実施後の値（単年度） | ①　6,570,050　千円 | 実施後の値（累積） | ①　28,007,002　千円 | |
| | | ②　3,017　千円 | | ②　24,866　千円 | |

## ３　事業の分析（CHECK）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 進捗状況 | ☐　目標の進捗を上回る　☑　目標どおりの進捗　☐　目標の進捗を下回る | | | | |
| 説明 | 給水収益は、料金改定を実施したため、概ね目標どおりの結果となった。 | | | | |
| | 達成率（単年度） | ①　101.95　％ | 達成率（累積） | ①　46.92　％ | |
| | | ②　167.70　％ | | ②　138.22　％ | |

## ４　今後の方向性（ACTION）

| | | |
|---|---|---|
| 事業の方向性 | ☑　中間見直し通り推進　☐　見直しの必要あり　☐　中止 | |
| 今後の取組方針 | 総合評価 | A |
| | 未収金の縮減について、引き続き委託事業者と連携し納付指導による収納率の向上、不納欠損の縮減に努める。 | |

## ５　津市上下水道事業経営審議会の意見

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評定 | 適正 | 説明・意見 | |

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画（投資・財政計画）評価シート

## 1　計画概要（PLAN）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 計画コード | 20-20-01-02 |
| 所管する所属 | 上下水道事業局（水道工務課・水道施設課） | | |
| 会計名称 | 20 水道事業会計 | 計画関連ページ | P52,P53,P54,P55 |
| 財政収支計画 | 01 投資・財政計画 | | |
| 大項目 | 02 資本的収支 | | |
| 中項目 | 収入の部<br>支出の部<br>不足額<br><br>財政計画との比較については、別紙『水道事業（投資・財政計画）及び決算比較表』のとおり | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 指標 | ① 管路の耐震化及び更新に係る事業費 | | | |
| | ② | ― | | |
| 目標値 | 単年度 | ① 12.8 億円 | 令和９年度（計画最終年度/累積） | ① 107 億円 |
| | | ② ― | | ② ― |

## 2　実施結果（DO）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 実施した主な事業 | 資本的収支は、水道事業に必要となる固定資産等を構築するため、当該年度の収支状況を示したものである。支出の部は、水道の整備に係る費用（事業費）と過去に借入れた企業債償還金であり、収入の部については、事業費の財源とする企業債と他会計出資補助金等である。支出の部の主な事業は次のとおりである。<br>【基幹管路の耐震化】<br>老朽度だけではなく病院等の重要施設や指定避難所となっている応急給水拠点への供給ルート等を考慮して更新を進めている。令和４年度は、森町地内配水管布設工事、ほか４件を実施した。<br>【老朽管の更新】<br>漏水状況及び他事業との同調施工を考慮して更新を進めている。令和４年度は、白山町八対野地内配水管布設工事、ほか３０件を実施した。 | | | |
| | 実施後の値（単年度） | ① 22.0 億円 | 実施後の値（累積） | ① 68.2 億円 |
| | | ② ― | | ② ― |

## 3　事業の分析（CHECK）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 進捗状況 | ☑ 目標の進捗を上回る　☐ 目標どおりの進捗　☐ 目標の進捗を下回る | | | |
| 説明 | 基幹管路の耐震化施工が困難となっていた一部工区において、工法の再検討や用地取得等により、シールド工法や推進工法の特殊工法を併用して工事を実施したため、事業費が計画値を上回った。 | | | |
| | 達成率（単年度） | ① 172.03 % | 達成率（累積） | ① 63.75 % |
| | | ② ― % | | ② ― % |

## 4　今後の方向性（ACTION）

| | | |
|---|---|---|
| 事業の方向性 | ☑ 中間見直し通り推進　☐ 見直しの必要あり　☐ 中止 | |
| 今後の取組方針 | 総合評価 | A |
| | 有効な財源である国庫補助を活用した基幹管路の耐震化を推進すると共に、管路網全体の中で重要度や緊急度を考慮し、管路更新を図っていく。 | |

## 5　津市上下水道事業経営審議会の意見

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評定 | 適正 | 説明・意見 | |

令和４年度　第２次津市水道事業基本計画（投資・財政計画）評価シート

## 1　計画概要（PLAN）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 計画コード | 20-20-01-03 |
| 所管する所属 | 上下水道管理局（経営企画課） | | |
| 会計名称 | 20 水道事業会計 | 計画関連ページ | P52,P53,P54,P55 |
| 財政収支計画 | 01 投資・財政計画 | | |
| 大項目 | 03 資金残高及び企業債残高 | | |
| 中項目 | 資金残高<br>企業債残高<br><br>財政計画との比較については、別紙『水道事業（投資・財政計画）及び決算比較表』のとおり | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 指標 | ①　計画最終年度（令和９年度）に1年分の給水収益と同程度の資金残高約50億円 | | | | |
| | ②　計画最終年度（令和９年度）に給水収益の約３倍である企業債残高約170億円 | | | | |
| 目標値 | 単年度 | ① | 26.72　億円 | 令和９年度（計画最終年度/累積） | ①　50.00　億円 |
| | | ② | 155.09　億円 | | ②　170.00　億円 |

## 2　実施結果（DO）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実施した主な事業 | 第２次基本計画策定時に世代間負担の公平性等を容易に確認できるよう設定したものである。<br>資金残高については、大規模災害等の備えや現世代が資金を枯渇させると将来世代の負担が大きくなることから計画最終年度である令和９年度に約50億円が確保されるよう目標とし、企業債残高については、負債である企業債に依存した事業運営を行った場合、人口減少が進むなか、給水人口一人当たりの負債額が大きくなるため、計画最終年度である令和９年度に企業債残高が約170億円となるよう目標とした。<br>【資金残高】<br>資金残高は、令和４年度決算では約38億円となった。<br>【企業債残高】<br>企業債は、補助事業については100%、単独事業については50%の割合で充当した。 | | | | |
| | 実施後の値（単年度） | ① | 38.73　億円 | 実施後の値 | ①　38.73　億円 |
| | | ② | 157.30　億円 | | ②　157.30　億円 |

## 3　事業の分析（CHECK）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 進捗状況 | ☑ 目標の進捗を上回る　☐ 目標どおりの進捗　☐ 目標の進捗を下回る | | | | |
| 説明 | 令和４年度決算における資金残高は、約３８億円となり目標値を上回った。<br>また、令和４年度末の企業債残高は、一部の建設改良工事において予算繰越を行ったことに伴い企業債借入金も約2.6億円令和５年度に繰り越したことから、借入額が償還額を下回り、令和３年度決算より約0.9億円減少した。 | | | | |
| | 達成率（単年度） | ① | 144.95　% | 達成率 | ①　77.46　% |
| | | ② | 101.42　% | | ②　92.53　% |

## 4　今後の方向性（ACTION）

| | | |
|---|---|---|
| 事業の方向性 | ☑ 中間見直し通り推進　☐ 見直しの必要あり　☐ 中止 | |
| 今後の取組方針 | 総合評価 | A |
| | 料金改定により、資金残高は今後目標とする５０億円に向けて徐々に改善することを見込んでいる。<br>また、企業債残高についても目標とする１７０億円程度に抑えることを見込んでいる。<br>一方で、管路経年化率が全国平均を大きく上回るなど水道施設の老朽化が進んでおり、これまで以上に更新事業にも投資していく必要がある。<br>今後も経費の削減に努めつつ、内部留保と投資のバランスを見極めながら経営の安定化を図る。 | |

## 5　津市上下水道事業経営審議会の意見

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評定 | 適正 | 説明・意見 | |